

連載



え？ここって買収されたの？

2000年代からの マイコン半導体ベンダ栄枯盛衰

最終回
第8回 フィリップスからNXPへ

岡野 彰文/櫻井 幹/永井 克俊/橋本 耕太郎/浜野 正博
Akifumi Okano/Motoki Sakurai/Katsutoshi Nagai/Kohtaro Hashimoto/Masahiro Hamano

今回は、フィリップス社から分社したNXPセミコンダクターズ(以下NXP)社、そして経営統合後の新生NXP社について説明します。各情報は執筆(2021年11月)時点のものです。

フィリップスからNXP(旧)へ

● 元祖フィリップスのマイコン

半導体部門が分社するまえのフィリップス社は、照明にはじまり家電、産業機器、医療機器、そして電子部品など多くの事業を展開していました。当時のフィリップス社では、インテル社からライセンスを受けた8051コア搭載製品が汎用マイコンの主流でした。8051は8ビット・マイコンですが、後に16ビットに発展させた8051XA(eXtended Architecture)が登場します。このコアを搭載した製品もラインナップしていました。しかし、このXAはあまり流通しなかったようです。このころはすでにC言語でプログラムを作ることが普通になってきたため、命令互換のメリットが薄れていたのでしょう。

実はフィリップス社にはSCC68070という製品もありました。モトローラ社からライセンスを受けた68K

ベースのチップで、当時のCD-i(CDインタラクティブ)製品に使われていました。

1990年代には、このほかにもGeneral Magic社のPDA向けにMIPS3000コアを使用したチップや、フィリップス社の完全オリジナルのVLIWプロセッサTriMediaなども開発/販売していました。TriMediaは5命令同時発行のVLIWで、命令を並列化するためのコンパイラや、最適化を行うプロファイラなどの独自ツールも開発/提供されていました(TriMediaは2000年に分社化された)。

このころは、さまざまなアプリケーション向けに、多彩なコアの製品が展開されていました。

● Armマイコンの時代へ

時代は進み、分社化してフィリップス・セミコンダクターズが誕生します。1999年にVLSI社を買収し、その後の2002年にはArmコア搭載の汎用マイコンがリリースされました。図1にフィリップス社時代からLPCシリーズに続くマイコンの系譜を示します。

Armコア採用マイコンとして、ARM7TMDIコアを搭載したLPC2000シリーズ、ARM9コアを搭載したLPC3000シリーズなどがありました。LPC2000シ

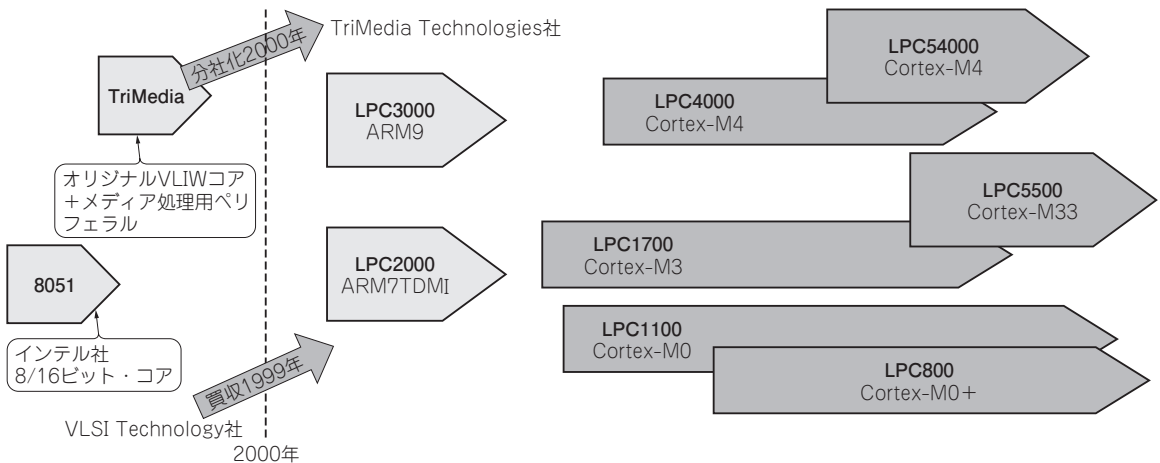


図1 フィリップス社時代からLPCシリーズに続くマイコンの系譜